

氏名 上 野 邦 夫

授与した学位 博 士

専攻分野の名称 医 学

学位授与番号 博 乙 第 2690 号

学位授与の日付 平成 6 年 3 月 25 日

学位授与の要件 博士の学位論文提出者

(学位規則第 4 条第 2 項該当)

学位論文題目 悪性リンパ腫の化学療法に関する研究

第 1 編：Mitoxantrone, Etoposide, Cisplatin, Prednisolone
併用療法(MEPP)によるnon-Hodgkin's lymphomaの
salvage療法の検討

第 2 編：血液腫瘍細胞に対するin vitroの薬剤併用効果：Medi-
an effect analysisによる検討

論文審査委員 教授 太田 善介 教授 赤木 忠厚 教授 辻 孝夫

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第 1 編： 初回治療にて完全寛解導入に失敗した症例および初回寛解導入後再発したnon-Hodgkin's lymphoma (NHL) に対し, mitoxantrone, etoposide, cisplatin, prednisoloneを併用したMEPP療法を立案し, その効果を検討した。評価可能症例24例中, 完全寛解 (CR) 5 例 (21%) 部分寛解 (PR) 7 例 (29%) を得た。寛解持続期間の中央値は25週, うちCR例では38週, PR例では24週であった。MEPP療法開始後の生存期間中央値は, CR例では93週, PR例では50週, 無寛解 (NR) 例で25週であり, CR例とNR例の生存期間の間には, 統計学的に有意差を認めた。副作用として骨髄抑制が比較的強く出現したが, 可逆性であり, その他の重篤な副作用は認められなかった。本療法はNHLに対するsalvage療法として優れたものであると考えられた。

第 2 編： 造血器腫瘍における効果的な併用療法を確立する目的で, 4 種類のanthracycline-anthraquinone系薬剤と他の 5 薬剤のin vitroにおける併用効果を 2 つの細胞株を用いてmedian effect analysisにて検討し, 以下の結果を得た。HL-60においては, ACR・Ara-C, THP-ADM・CDDP, MXT・4 HO₂-CTX, MXT・

Ara-C, MXT・VCR, MXT・ETPの組合せが相乗的效果を示し, MXTにおいて最も広い相乗効果が認められた。また, Burkittリンパ腫由来のRajiでは, ADM・ETP, ADM・CDDP, ACR・VCR, THP-ADM・VCR, THP-ADM・ETP, THP-ADM・CDDP, MXT・VCRの組合せが相乗的效果を示し, THP-ADMにおいて最も広い相乗効果が認められた。

論文審査の結果の要旨

本研究は初回治療にて完全寛解導入に失敗した症例および初回寛解導入後再発したnon-Hodgkin's lymphoma (NHL) に対し, mitoxantrone, etoposide, cisplatin, prednisoloneを併用したMEPP療法を立案し, その効果を検討したものである。その結果副作用として骨髄抑制が比較的強く出現したが, 可逆性であり, その他の重篤な副作用は認められなかった。本療法はNHLに対するsalvage療法として優れたものであると考えられた。また造血器腫瘍における効果的な併用療法を確立する目的で, 4種類のanthracycline-anthraquinone系薬剤と他の5薬剤のin vitroにおける併用効果を2つの細胞株を用いて検討した。HL-60においては, MXTにおいて最も広い相乗効果が認められ, Burkittリンパ腫由来のRajiでは, THP-ADMにおいて最も広い相乗効果が認められた。これらは価値ある業績であり, よって本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。